

20年たてば・・・

■ 「後悔」と「公開」と「更改」と「航海」

日本は言霊の国。
言葉には霊的なチカラが宿ると言われています。

そしてだからこそですが、同じ読み方の漢字には、関連した意味をもつわけです。



当たったぞ！

私が好んで使うのは、奇跡は軌跡。

「宝くじが当たる！」
こんな奇跡は確かにありますが・・・

ホントの奇跡は、軌跡の結果。
つまり、「コツコツ努力していると(軌跡)と奇跡がおきる。」
ということです。

また、両親＝良心もそうです。
両親を思いやる心は良いところですね。

では、後悔はどうでしょうか。

“こうかい” という感じはたくさんあります。

「後悔」「公開」「更改」「航海」……

私は、この “こうかい” という言葉遊びも好きです。

【更改】: 過去の決定や契約などを新たなものに変えること。

【公開】: 広く一般に開放すること。



壁越しの会話をするような
後悔はイヤですよね～

【後悔】:あとになって悔やむこと。

【航海】:船舶で海洋を渡航すること。



後悔は、あとになって悔やむこと。

じゃあ、どんなときに「あとで悔やみ」ますかね。

航海にでなければ・・・

なにかの行動をおこし、失敗したときでしょうか？

それとも、行動したかったけど、行動しようと思ったけどできなかったときでしょうか？

当然、行動できなかったときですよ。

だって、

「失敗しないのは、挑戦していない証拠。」

ですから。

マークトゥエイン(トムソーヤの冒険の作者)も、

「20年たてば、したことよりもしなかったことを嘆くようになる」

シドニー・ハリス(風刺漫画家)は、

「我々がした事に対する後悔は 時間によって和らげられるが、

しなかった事に対する後悔は緩和できない。」

たったこれだけの格言からも、「後悔」と「航海」の関わりがわかります。

「しなかったことを後悔しないように、“航海”に出よう！」

「公開」も同じです。

私たちは自分が得たものを、世のために広く開放する義務をもっています。

もちろん、そういった生き方をしない選択もできます。

でも、私たちが他人に生かされている現実を考えるなら、本来は、公開する義務をもつことはあきらかなことだと思います。

では、更改(過去の決定や契約などを新たなものに変えること。)は、どんな関連があるのでしょうか。

私は、「航海」という言葉に「更改」のヒントが隠されていると考えます。

たとえば、航海についてはこんな格言があります。

■ 「進路を決めるのは風ではない、帆の向きである。

人の行く手も海を吹く風に似ている。

人生の航海でその行く末を決めるのは、なぎでもなければ、

嵐でもない、心の持ち方である。」

(エラ・ウィーラー・ウィルコックス(米国の女性作家・詩人)「運命の嵐」)

■ 「船のパーツにはそれ自体の重みで沈むものがある、

エンジンやプロペラなどのように。

だが船の各パーツが集まって組み立てられると、その船は浮く。

私の人生の様々な出来事もまたしかり。

悲しい出来事もあれば、楽しい出来事もあった。

しかし、それらが堅固に結び合っていれば浮かぶ船となり、どこへでも航海できるのだ。(ラルフ・ソックマン[ラルフ・W・ソックマン](米国のメソジスト教会牧師))

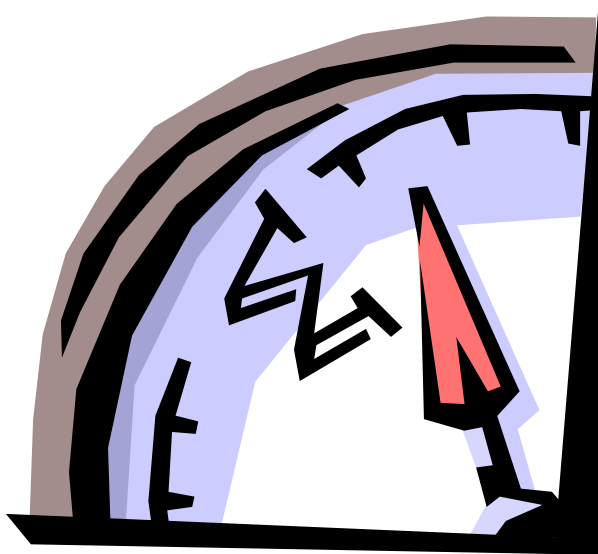
■ 「私たち一人一人が航海しているこの人生の広漠とした大洋の中で、理性は羅針盤、情熱は疾風。(アレキサンダー・ポープ、17~18世紀イギリスの詩人)

この格言から、私はふたつのことに気づきました。

ひとつは、「情熱」とは「風」のようなものだということです。

風は日によって強く吹くこともあれば、弱いこともある。もちろん、風のない日もあれば嵐になることもある。さらには、風の方角もマチマチです。

風とはそんなものなのですから、情熱だけで航海に出てはいけません。



こころのあり方が、人生の羅針盤です。

では、航海には情熱のほかになにが必要なのか？

それは羅針盤です。
ただし、人生の羅針盤ですから、それは理性的な判断であり、自分の「こころのあり方」です。

この「こころのあり方」には、準備も含まれます。当たり前のことですが、船がボロボロだったり、食料や水の準備は欠かすことができません。

「更改」とは、航海にでたときの経験や体験を改めていくことではないのでしょうか？

私たちの人生は失敗の連続です。
その経験が積み重ねられることで、私たちは目の前の課題をこなします。
しかし、それでもすべてがうまくいくわけではありません。

そんな現実が、過去の決定を変える(更改)ことを要求します。

「失敗が続くなら、同じやり方を続けてはいけません。
そして、違う結果を求めるならやり方を変える必要があります。」

更改と航海は、私たちにそんなことを教えてくれているのではないのでしょうか。

過去の決定を変えたとき、「軸がぶれる。」とか「ほら、まちがっていた！」と否定する人が必ずいます。

でも、そんな人たちこそなにもわかっていない人。
私たちの生活環境は常に変化しています。
そして、私たち自身も、新たな知識を常にインプットしています。
それが、変化につながらないほうがどうかしています。

これを言ったらおしまいですが、私たちはどうせ死んじゃいます。

ならば、いつまでもチャレンジする気持ちを持ち続けたいものです。

もう一度、

「20年たてば、したことよりもしなかったことを嘆くようになる」

「我々がした事に対する後悔は 時間によって和らげられるが、
しなかった事に対する後悔は緩和できない。」

【追記】

■ 他のレポートにもご興味のある方は、
こちら↓↓↓をどうぞ。

<http://www.sinsd.com/index.php?nouhau>

■ 言霊に宿るパワーを浴びよう！

「日刊 名言」

<http://www.sinsd.com/index.php?meigen>

■ 昔話の心理学については↓↓↓こちら

<http://www.sinsd.com/index.php?sinnri>